

この1枚



山行報告

★城峰山(3月9日)

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)

今日はすばらしい天気にも恵まれた。西武線の車窓から真っ白な富士山を見ることができた。

皆野の駅で下車し、予約していたタクシーに乗り込む。男衾登山口でタクシーを降り、準備をして出発する。今回は、8名の参加者だ。

民家の横の登山道を入ると、すぐにフクジュソウが咲いていた。民家の方が植えたのだろう。秩父紅と言われるオレンジ色のフクジュソウ

も咲いていた。



しばらく山道を登っていくと、半納登山口からの道と合流する。杉の植林帯が続く。暑くなってきたので、小休止をして、衣類調整をして

もらう。

久しぶりに登山に参加したNさんは、ゆっくりペースだが、確実に登ってきている。登り初めて1時間20分ほどでキャンプ場に到着する。少し先に、城峰神社がある。神社の前は展望台になっていて、両神山や甲武信ヶ岳など、奥秩父方面の展望が素晴らしい。両神山の右奥に見えるのは、南アルプスかと思ったが、ハヶ岳であることを山頂の展望写真で分かった。



城峰神社前にて

神社の左手を登っていく。尾根上の歩きやすい道だったが、途中、岩の多い所も出てきた。尾根の左手には、多くの雪を抱いた真っ白な山々が見える。これも北アルプスかと思ったが、谷川連峰や志賀高原方面の山であることが後で分かった。



城峰山にて

山頂に着くと、一等三角点であることを知らせる看板が目についた。電波塔は、展望台になっている。上がってみると素晴らしい展望が広がる。雲取山から飛龍山、和名倉山、雁坂嶺、木賊山、甲武信ヶ岳、三宝山、両神山、二子山、遠くにハヶ岳、その右には、東西の御荷鉾山とその後浅間山が見える。さらにその右手には、横手山などの志賀高原の山々が続き、真っ白な

谷川連峰へと連なっている。さらにその右には、日光の男体山や白根山も見えていた。



城峰山山頂から見た谷川連峰

素晴らしい展望を楽しみ、ゆっくりとお昼ご飯を食べる。日が当たっているとぽかぽか陽気で、防寒着もいらぬ。

1時間近く休んで山頂を後にする。日陰に入ると、やはり寒い。それでも歩いていけば暖かくなる。行く手の稜線に直登の道と巻き道があると、迷うことなく巻き道に行く。鐘掛城も巻き道を使って通過する。

危険なところもない歩きやすい道を下る。途中、鉄塔のある展望の良いところで、小休止。今回、最初から抜きつ抜かれつしていた埼玉県のグループが追い越していった。

しばらく下ると林道に飛び出す。林道を横切って下る道がよく分からず、下っていく道を行ったが、どうもないようなので戻って、少し行ったら、正しい道を見つけることができた。

最後は、林道となり、下っていくと、西門平のバス停に着いた。しかし、バスの時間まで1時間半もある。何も無い所で待つのも辛いので、しばらくバス路線の車道を歩くことにする。

そろそろ疲れてきて、歩きたくない雰囲気になったところで、秩父華厳の滝の入口にあるバス停に到着。ここに茶屋があったので、ここで休憩してバスを待つことにする。華厳の滝を見に行った人もいた。

最後に車道を歩いたこともあり、少し疲れて、バスに乗り込む。あとは爆睡で皆野駅に着いた。

記：網干

コースタイム

男衾登山口(9:55)…城峰キャンプ場(11:15-11:25)…城峰山(11:50-12:45)…鐘掛城巻

き道(13:12)…西門平バス停(14:25)…奈良尾入口バス停(15:05)

★小倉山・塩ノ山(3月24日)

参加者 会員(障害者5名、健常者6名)

天候に恵まれ、午後になっても雲一つない晴天の下を、美しい富士山、南アルプスの山並みや春を待つ山の自然に見とれながら、賑やかに元気に歩くことができました。

中央線の塩山駅から3台のタクシーに分乗して、小倉山の登山口まで行きました。私たちの乗ったタクシーの運転手さんが親切で、食べ物や道路の周りに咲いてる花などの話を楽しそうにしてくれました。



登山口から10分ほど歩くと、ザゼン草公園でした。ゆるやかな斜面で水が流れている場所に木道があり、その周辺にザゼン草がた

くさん咲いていました。時間に余裕があったのでゆっくり鑑賞できました。

小倉山の山頂には展望台があり、そこから南アルプスの山並みや富士山がとても美しく見えました。しばらく歓声をあげた後も立ち去りがたく、少し早い昼食を展望台下で取りました。



昼食後の尾根歩きは、風が少し冷たく、急な上り下りもあったりしてやや厳しく声を掛け合って歩きました。その後も、歩く方向がわかりにくかったり、歩道を見つけるのに苦労した場面もありましたが、予定どおりのバス停に着くことができました。時間が少し遅れたため適当なバスがなく、朝利用したタクシー会社に連絡して3台きてもらいました。塩ノ山登山口まで運んでもらいましたが、この時の運転手さんも親切で、歩くコースや下山後の温泉について詳しく教えていただきました。



塩ノ山は、登山口から30分程度で山頂に着きました。ここからの富士山も絶景でした。

下山すると、向嶽寺という臨済宗の立派なお寺がありました。



小倉山からの富士山

向嶽寺の前で、温泉組と帰宅組に分かれました。温泉組は、タクシーの運転手さんから教えてもらった宏池荘に入りましたが、以前、アル

プの山行で入ったことのある温泉でした。入浴後は塩山駅まで車で送っていただきましたが、お陰様で新宿駅行きのホリデー快速に乗ることができました。感謝感謝です。

本当に充実した山行でした。皆様 ご協力ありがとうございました。 記：茅原

コースタイム

玉宮登山口(10:10)…小倉山(11:05-11:50)
…玉宮バス停(13:50 タクシーを呼び)
…塩ノ山登山口(14:20)…塩ノ山(14:50)…
向嶽寺に下山(15:40)

★竜門峡(4月7日)

参加者 会員(障害者1名、健常者8名)

今日は、かなり暖くなる予報だが、朝はまだ寒い。薄手のフリースとダウンを着て家を出る。電車の車窓からは、満開の桜が楽しめる。



甲斐大和駅の桜

今日は、石巻からGさん親子が参加する。高尾からの電車で合流する予定だったのでショートメールで連絡を取り合う。前から2両目に乗ったということなので行ってみるが見当たらない。遠くから来た人に土地勘がないのは当たり前前。たぶん、後から2両目に乗ったのだらうと思い、メールを送るとその通り。電車が出発して、少ししてからGさんが前から2両目まで来てくれた。Gさんとは、昨年の東吾妻山以来の再会。Rちゃんとは5年前の磐梯山での

交流登山以来になる。変わらないGさんと、成長したRちゃんに会えてとても良かった。石巻より一足早い桜も楽しんでもらえたことだろう。

甲斐大和駅でバスに乗り、竜門峡入口で下車する。竜門橋を渡ると、竜門峡遊歩道は車道に沿って左側に行くことになっているが、地図はすぐ右に折れるようになっているので、橋を渡ってすぐあった道を歩いてみる。しかし、すぐに行き止まりになったので、道路まで戻る。

道路を少し行くと遊歩道への道があった。まずは、コンクリートで固められた道を歩く。周囲にはキブシが咲いている。少し行くと山道となる。早春に咲くスミレが咲いていた。タチツボスミレに似ているが、葉に赤いフが入っているので、それを目印に返ってから調べることにする。

9年前に竜門峡に来たときは、5月だったので新緑がきれい、フデリンドウやアカネスミレも見られたが、今回は、まだかすかに芽が出始めた程度の木が多い。桜も咲いていない。それでも、ウグイスやミソサザイなど、留鳥のさえずりも聞かれる。夏鳥たちはまだ渡ってきていないようだが、甲斐大和駅ではイワツバメが見られた。



沢沿いを歩いていくと、落合3つの滝への分岐に着く。せっかくなので、滝を見に行くことにする。細い橋で日川を渡り、急な階段を登っていく。少し行くと滝を見る展望台に着く。ここで集合写真を撮る。迫力があるわけではないが、3段の滝が見られた。



日川を渡る橋には、手捕まれるようにしっかりしたロープが張られているので、チロリアンブリッジができないか試みてみたが、ねじりが大きく身体が滑らないのでできなかった。ねじりのせいよりも、バランスの悪さに原因があるとも思えるが？

沢を歩いて行くとミソサザイを見つけた。メジロと同じくらいの小さな鳥だが、賑やかな声でさえずる。

沢を渡ったところにある東屋で昼食タイムとする。9年前もここでお昼を食べたことを思い出す。

東屋から、近道を通って車道に出ることもできるが、せっかくなので最後まで沢沿いに行くことにする。少し行くと大きな鳥がいた。飛んだときに青い部分が見えたのでカケスである

ことが分かった。すぐにいなくなることが多いが、今回はしばらく近くの木に止ったりしてくれた。



平戸の石門や木賊の石割ケヤキを楽しみ、蜘蛛淵の大きな釜を見に行く。最後は、大きな堰堤から流れ落ちる水流を見て、車道へと登っていく。



車道に出たところに栖雲寺があった。そこから車道を15分ほど歩くとやまと天目温泉に着く。バスは、約30分後にあり、その次は3時間ほど後だ。温泉に入りたいので、タクシーを呼ぶことにするが、すでに予約で埋まっているため、次のバスと同じになってしまう。そのことがわかり、一度風呂に入った人もすぐに出て、すぐに来るバスで帰る人が多くなった。

3時間後のバスで帰ることにした4人は、温泉でゆっくり休むことにした。最後はバタバタしたけど、鳥たちを見たり、初春の溪流を楽しむことができました。 記：網干

コースタイム

竜門峡入口(10:15)…東屋(11:30-12:05)…
車道(12:40-12:50)…やまと天目温泉(13:00)

★伊豆ヶ岳(4月14日)

参加者 会員(障害者3名、健常者6名)

休憩時間を入れて9時間余りの長い行程となりましたが、全員そろって最後まで歩きとおすことができました。

天気予報では「曇り 夕方から雨?」となっていました。歩き出しは青空が広がっていましたがしばらくすると一面の曇り空になり、正丸峠あたりからは「爽やか」というより「少し冷たい」風が吹いていました。その後はときどき薄陽が差したり曇ったりを繰り返しながらの、歩きやすい天気が続いてくれました。午後2時ころからポツリポツリと落ちてきましたが、「これ以上ひどくならないでほしい。」と思いながら歩いているうちに上がってしまいました。参加された皆様の日ごろの行いに感謝です!



丸太の橋を渡る

駅から正丸峠分岐までの間は、家々の庭などに春の花が咲き乱れていました。

伊豆ヶ岳山頂直下の鎖場がある男坂は通行禁止となっているため、迂回して山頂を目指しました。通行禁止の中を登っている人もいましたが、小さな石が落ちる音がときどき聞こえてきました。山頂で少し早い昼食を取りました。周囲には大きなヤマザクラの木が何本もあり、膨らみかけた蕾と赤みがかかった新芽が揃ってきれいでした。伊豆ヶ岳からの下りは長くて急

な斜面が続き慎重に降りました。下りが苦手な人もいましたが、途中で止まることなくスムーズに歩くことができました。頑張りました!



伊豆ヶ岳山頂にて

伊豆ヶ岳を過ぎると登山者の数が減り、穏やかで静かな山道を、様々な色をした新芽やミツバツツジ、アカヤシオ、アケボノスミシなどを楽しみながら歩くことができました。鳥の声は何回教えていただいても覚えられませんが、今回、ヒガラはわかったような気がします。次回聴いても多分?だと思います。



アカヤシオ

大きな鉄塔の周囲がきれいに伐採されており、工事用車両のために作られたと思われる広い道がハイキング用の細い道と交差したり重なったりして続いていました。

天目指峠から子の権現までの間は最後の登りが延々と続きました。ゆっくりとペースを落として歩いたので思ったより楽に歩け、「登りの歩きに自信がついた。」という声も聞こえてきました。

子の権現の参道の売店においしそうなワラビが並んでいました。何人かの人が購入しまし

だが、売り手に回っている人もいました。売店の横にある大きな木は、雷?の後か、上部が黒焦げてなくなっていて迫力満点でした。



ミツバツツジを見ながら下る

その後はひたすら駅まで下って行きました。

★三ツ峠山(4月21日)

参加者 会員(健常者5名)

今回は、久しぶりとなる三ツ峠山だ。湿気が多く、くっきりとした展望は望めないと思うが、バスの車中から見る富士山は、たっぷり雪を抱いて美しい。特に、河口湖の畔から見えた富士山は最高だった。



河口湖からの富士山

バスは、天下茶屋が本来の終点だが、通行止めらしく、三ツ峠登山口が終点となった。バスを降り、いつもの簡単な自己紹介を済ませて出発する。今日は、Kさんが風邪を引いていて、体調が思わしくないらしい。声が出なくて、ほとんどしゃべれないようだ。

まずは車道を歩く。外国人の夫婦が少し先を歩いていたが、分岐点等でどちらに進んで良いか分からず、困っていたようなので、こちらを

予定時間どおりに西吾野駅に到着したときは、皆で達成感、安ど感に浸ることができました。

皆様の頑張りのおかげでとても充実した山行になりました。ありがとうございました。

記：茅原

コースタイム

正丸駅発(850)…正丸峠(1005)…伊豆が岳(1110-1145)…高畑山(1315)…天目指峠(1445)…子の権現(1615)…西吾野駅着(1805)

向いたときに、手で方向を示してあげた。道標は十分にあるが、日本語だけなので、分からないようだ。



数日前に降った雪が残っていた

山道に入っても林道のような広い道が続く。夏鳥の声はほとんどしないが、ヒガラやヤマガラ、ミソサザイなどの留鳥の歌声が聞こえる。登っていくと、ルリビタキもさえすっていた。

北側の斜面や登山道横に、先日降った雪が残っていた。雪が溶けたばかりのところはぬかるんでいるため、少しでも靴を汚さないで済むところを探して歩く。心配されたKさんも順調に登っている。

木無山の山腹をトラバースし、尾根の下の道を歩いて四季楽園の山荘に到着する。これから登る開運山とその下の屏風岩がよく見える。数パーティーが岩場でトレーニングをしているの見える。



三ツ峠山頂にて

昼食は、山頂で摂ることにして、すぐに山頂に向かう。山頂へは、階段の道が続く。まだ階段の木が新しい。まだ着くって1～2年ほどではないだろうか？ 右手に見える富士山は笠雲がかかり、うっすら見える程度になっていた。振り返ると、御坂山地の山々が見え、その奥にうっすらと南アルプスが見える。あまりに薄いことと、山頂付近は雲に隠れていたことから山座同定はできなかった。



屏風岩にはクライマーがいた

山頂に着くと、人が多く、とても昼食を摂るスペースを確保できそうにない。諦めて、集合写真だけ撮って、四季樂園まで下ることにする。

屏風岩ではクライマーたちがトレーニングに励んでいる。犬を連れてきているパーティーがいるのか、犬の鳴く声が屏風岩の下から聞こえている。

先日の降雪でこの付近は30センチほど積もったらしい。そのせいで、途中の北側斜面に雪が残っていたようだ。

帰りのコースは、霜山経由も考えたが、計画通り母の白滝に下ることにする。少し歩くと、三ツ峠山荘前の餌代にヒガラが2羽来ていた。

広い尾根を歩いて行くと木無山に着く。山頂

は広い草原になっていて、木がないので木無山なのだろうか？ 晴れていると富士山がよく見えるはずだが今日はもやっていてよく見えない。



餌台に来たヒガラ

ここから、下山の道に入る。ところどころ、ぬかるんでいて、滑って転ばないように注意して下る。林道に出て、さらに下っていく。アカマツ林を下っていくとピンク色のスミレが咲いている。帰って図鑑を調べてみたらシハイスミレのようだ。さらにマルバスマシレが咲き、ワチガイソウの仲間も咲いていた。ヒトリシズカが静かに咲いているが、群落になって賑やかな感じのところもあった。

足下の草花を楽しみながら下っていくと母の白滝に着く。ここには、母の白滝神社がある。滝は2段になって落ちている。

林道に出ると、いろんな種類の桜が咲いていて、楽しみながら歩いていると、コースはそちらではないとKDさんのアドバイス。つい花に見とれてコースを間違うところだった。ただ、間違ったところは、遠回りだけど、帰れないわけではなかった。



下山途中の林道で

近道をして下っていくと、浅間神社に出る。

神社には、太い杉がいくつかある。二つ並んだ杉は、両柱杉とも二柱杉とも男女杉とも言うらしい。

神社を出るとすぐ前にバス停があった。時刻表を見ると、20分ほどでバスが来る。バスが来たと思ったら、そのバスは、世界遺産巡回バス？ということ、河口湖に着くのは、相当時間がかかるとのこと。近くにある河口局前で乗るように言われる。すぐに行ってみたら、すでに時間が過ぎていたが、遅れていたようで、少ししたらバスが来た。バスに乗り込み、河口湖駅に向かう。風邪で声が出ないと言っていたKさんは、すっかり元気になって声も出るようになっていた。山の空気が風邪を治してくれたの

★至仏山(4月28日～29日)

参加者 会員(障害者2名、健常者3名)

☆4月28日

前日朝まで天気予報は、日曜日が晴れて月曜日が曇りだったため、日曜日に鳩待峠から至仏山に登って山の鼻に下りる予定に変更したが、この計画だと山ノ鼻に着くのが17時頃になる。山の鼻小屋に連絡するが、時間が遅すぎる



ため危険なので、もっと早い時間に着くよう指示があり、認めてもらえなかった。しかし、天気予報が変わり、月曜日の方が日曜日以上に好天になる予報になった。これはラッキーなので、当初の予定通り、日曜日は鳩待峠から山の鼻に下って山の鼻小屋に泊まり、月曜日に至仏山に

だろう。

記：網干



コースタイム

三ツ峠登山口(9:50)…三ツ峠山(12:00-12:05)…四季楽園前(12:10-12:45)…母の白滝(14:35-14:45)…河口局前バス停(15:15)

登って鳩待峠に下山する、変更前の計画で行くことにする。

しかし、電車の時間を変更するのは無理なので、上野駅から新幹線で高崎に向かう。ところが、越後湯沢と浦佐の間で停電があり、電車が一時停まり、30分以上遅れることになる。そのため、沼田着も遅れる。ただ、タイミングの良いバスがあり、鳩待峠に約1時間ほどの遅れで到着する。

昨日は、雪が降ったはずだが、林道には雪がない。昨日は5cm程度の積雪で、朝は凍結して車がいけなかったそうだ。戸倉から鳩待峠までのバスの運転手さんは、ミズバショウが咲いているところで、少し停まって教えてくれる。

鳩待峠はやはり雪が多い。昨年は非常に少なかったようだが、今年は冬の間少なかったけど、4月になって多くの雪が降り、平年並みになったらしい。

スパッツを着けて山の鼻に下っていく。滑りたくない人はアイゼンを付けて下る。

青空が広がり、暖かな日差しがうれしい。フィフィフィというゴジュウカラの歌声が響く。ヒガラやアカゲラの声もする。夏道はほ

とんど分からず、雪道のトレースを頼りに歩く。あまり潜らないほどよい堅さなので、トレースもたくさん付いている。スキーで歩いた跡もたくさんある。



山ノ鼻に向けて歩く

山の鼻小屋に着き、受付を済ませて部屋に荷物を置く。時間が早いので、尾瀬ヶ原を少し散歩することにする。

小屋を出て少し歩くと、雪が溶けて姿を現した湿原にミスバショウが咲いていた。まだとても小さい花を付けている。気の早いミスバショウがいてくれてうれしかった。



小さなミスバショウ

雪原を歩き、無雪期では歩けないところも歩ける。雪解けの豊富な水が湿原の上を緩やかに流れていく。人も少ない。そんな尾瀬ヶ原を堪能しながら歩いて行くと、木道の上に張り出して積もっている雪に出会う。周囲は緩やかな川が流れ、水が多いため、早々に雪が溶けたのだろう。

この木道に積もった雪の上を歩き、木道に下りるのだが、ここが大きな段差で滑りやすく非常に悪い。私はピッケルを使って下りたが、1さんが私が近くにいたこともあり、木道に立った途端に滑って湿原に落ちてしまった。柔らか

な湿原なのでけがはなかったが、袖口や靴の中が少し濡れてしまった。ゴアテックスのヤッケは水を通さず、身体は濡れることがなかった。この下りは悪いため、みんなはここで引き返すことにする。私は、もう少し歩いて、今日でないと撮れない至仏山や尾瀬ヶ原の写真を撮って帰る。帰りにみんなと合流すると、至仏山の横に虹が見える。太陽にかかった暈だ。天気は悪天の前兆だが？



尾瀬ヶ原を歩く

小屋に戻り、風呂に入りたい人は入り、飲みたい人は飲むことにする。夕飯の頃にはすっかり眠くなり、早々に休ませてもらった。



尾瀬ヶ原と燧ヶ岳

☆4月29日

深夜、トイレに立ったついでに外に出てみると、満天の星空が広がっていた。北斗七星が正面に大きく見えていた。

朝食は6時とのことなので、弁当にしていた。大きなおにぎりを1個だけ食べて、準備をして出発する。小屋の周囲には、イワツバメが乱舞している。

早朝なので雪は締まっているが、私はアイゼンを使わずに登ることとする。尾瀬ヶ原から樹林帯を登っていく。ゆっくりゆっくり高度を稼

いでいく。ここは、斜度は緩いが、山頂まで終始登りが続く。そして風景の変化もあまりない。ただひたすらがんばって登るだけだ。



樹林帯を登る

森林限界を超えると、白い雪原に葉を落とした黒い木々と黒く見える川が幾筋もおやかに流れる。そんなモノトーンの世界の上に燧ヶ岳が佇み、その左手には会津駒ヶ岳が見える。真っ青な空が広がり、太陽の日差しが暖かい。

登るにつれて平ガ岳が見えてくる。会津駒ヶ岳の左奥には会津朝日岳方面も見えてくる。その奥にも真っ白な山が見えるが、飯豊の山々だろう。平ガ岳の左奥には、越後三山の中ノ岳と越後駒ヶ岳が見えてくる。雪深い山だけあって、まだ真っ白だ。



尾瀬ヶ原と燧ヶ岳、会津駒ヶ岳（左奥）

少しずつペースが落ちてくる。上を見上げると、まだまだ同じような傾斜の斜面が続く。ひたすらがんばるしかない。

ハイマツが出てくる。トレースはハイマツ帯の左に続いている。みんながんばって登ってくる。白いピーク状の所に上がると、目の前に山頂がある。山頂に立つと、今まで見えなかった谷川岳方面の山々が一気に見えるようになる。

山頂は雲に覆われて見えなかったが、一の倉

沢等の岩壁で谷川岳はすぐ分かる。その奥には仙ノ倉山、その右手の山頂が平らな苗場山、その右奥には妙高山、ぐっと近くには巻機山が佇み、そこから越後三山につながる越後沢岳等の山や尾根があり、兔岳の向こうに中ノ岳と越後駒ヶ岳が聳える。八海山はその左に山頂が少しだけ見えていた。



青空の下、至仏山を目指す

そして平ガ岳が続き、手前の景鶴山、その奥に会津朝日岳とさらに奥に飯豊の山々、会津駒ヶ岳、燧ヶ岳と連なる大展望が広がる。ただ、山頂で休憩していると、20分ほどで雲が近くに広がってきて、展望を隠してしまいそうになる。



至仏山山頂にて

早々に集合写真を撮り、下山にかかる。これから向かう小至仏山方面が一望だ。順調に下っていく。スキーで登ってくる人やスノーボーを背負った人たちも大勢登ってくる。日帰りで至仏山を楽しむ人が多いのだろう。

小至仏山のトラバースは、滑落したら危険だと思っていたが、幅が30cmほどのトレースが付いていて、ピッケルを持つかアイゼンを付けるかすれば問題なく歩ける。

小至仏山を過ぎると、正面に上州武尊山がよ

く見えるようになり、右手には笠ヶ岳がすぐ近くに見える。そろそろ展望もここまで。樹林帯に入っていく。トレースはあちこちに付けられている。山頂から50分ほど歩いたところで休憩し、振り返ると山頂は遙か遠くにある。下りは早い。鳩待峠まであと30分程度。1時間半ほどで峠に下ってしまう。



越後三山(左)と平ガ岳(右)

展望はもう終わりと思ったが、1カ所だけ樹林が切れて至仏山や燧ヶ岳が見えるところがあった。尾瀬ヶ原はすでに遠くなっていた。

鳩待峠に着き、乗り合いバスの切符を買う。

★陣馬山(5月19日)

参加者 会員(障害者1名、健常者8名)

1週間前は雨も降る予報だったが、直前になって晴れ間もある曇りの予報に変わってきた。当日の朝は、素晴らしい天気の中で、自宅を出発する。

本来は、今回「大人と子どものふれあい登山」だったが、子どもの参加がないので、大人同士のふれあい登山で実施する。こじつけかも？

藤野駅に着くとバス乗り場には長い列ができています。すでに臨時のバスが行き、定刻のバスには乗れなかった。臨時のバスが戻ってきたら、それが臨時で出てくれるらしい。約30分ほど遅れてバスは出発した。

藤野駅からは、対岸の山にラブレターのモニュメントがある。ITさんが、「あれは地元の

私はラーメンを食べたくて、食堂に入り、わずかの時間で食べてくる。乗り合いバス(タクシー)は、人数がそろったらすぐに出発してくれた。暖かいジャンボタクシーの中、いつの間にかうとうとと眠りについていた。 記：網干



至仏山を背に鳩待峠に向かう

コースタイム

4/28 鳩待峠(13:15)…山の鼻(14:20)尾瀬ヶ原散策

4/29 山の鼻(5:40)…至仏山(9:00-9:30)…鳩待峠(11:10)

Tさんという方が、地元の振興につながればと自分で作ったものだ」とのこと。地元愛が素晴らしいですね。



陣馬山登山口から登り始める

バス停でバスを降りると、すぐに陣馬山に向かう道があるが、少し先のトイレで用を済ませてから出発する。トイレの少し手前にも陣馬山に向かう道があったので、この道を登っていく。少し登るとバス停からの道と合流していた。

今回のコースは、一ノ尾根コース。私は初めて上るコースだ。傾斜は緩く危険箇所はなく、

とても歩きやすい道が続く。ただ、あまりスミシなどが咲いていない静かな道だ。それでもギンランを見つけた。植林側は暗いが、雑木林側は明るい。美しい新緑の林を楽しみながら登る。



イカリソウ

かなり登った頃、イカリソウを見つけた。花の形が船の碇に似ているからイカリソウという。写真を撮って登っていく。



山頂の鯉のぼりと生藤山

花は少ないが、春なので野鳥の歌声はたくさん聞こえてくる。今回は、イカルとキビタキの声が多かった。ツツドリやアオバトの声も聞こえた。



山頂で昼食タイム(1さん撮影)

和田に下る分岐を2つ過ぎると山頂は近い。山頂直下はこれまでも何度も登った階段だ。樹林が切れているので展望がよく、生藤山がよく

見える。山頂の茶屋も見えてきた。足下には、ナルコユリやアマドコロと思われる花が咲いている。まだつぼみのキンランもあった。

陣馬山の山頂に着き、ベンチで昼食タイムとする。今まで座っていたお二人が空けてくださった。ここには茶屋が3つほどあり、大きな鯉のぼりがたくさん泳いでいる。今日は、暑くもなく寒くもない、とても過ごしやすい気温だ。山頂でゆっくりして下山にかかる。



陣馬山山頂にて

景信山に続く稜線を奈良子峠まで歩き、そこから陣馬の湯方面に下る。こちらはこれまでより少し急だが、以前下りが苦手だったMさんは、問題なく下っている。とても上達していることが分かる。

ヤマツツジの花もちらほら見られた。陣馬の湯に下り、あとは舗装道路を歩く。バスの時間までまだ30分ほどあったが、車道を歩くのも疲れるのでバスで帰ることにする。近くに酒屋さんがあったので、のどを潤すことができた。

記：網干



奈良子峠から下る

コースタイム

陣馬登山口(10:00)…陣馬山(12:20-13:00)
…奈良子峠(13:40-13:45)…陣馬登山口

(15:20)

★高ボッチ山(6月1日～2日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

☆6月1日

今回は、体力のない方もすばらしい夜景と大展望が見られるようにと、諏訪湖の北に位置する高ボッチ山を選定した。ただ、夜景を見るためには泊まる必要があり、泊まるならせっかくなどで1日目を観光で計画した。少し足を伸ばすことになるが、中山道の宿場町として有名な奈良井宿を見ることとする。

今年3月から全席指定席となったあずさを塩尻で降り、中央西線の電車に乗りこむ。どの山に登るか分からないが、ザックを持っている人が多い。

私たちは、奈良井駅で降りる。ICさんが切符やパスモが入った透明のケースをなくしてしまったとのことで、いろいろ探したら、すぐ近くに落ちていたのでホッと一安心。



江戸時代にタイムスリップしたような奈良井宿を歩く。漆塗りの漆器屋さんが多い。またどの店でも御岳百薬丸を売っている。御嶽山の近くだからこの付近で作られたものようだ。

昼食は、そば屋さんに入る。天ぷらそばは、海老の天ぷらだそうだが、野菜の天ぷらはないかと聞いたら、山菜の天ぷらを出してくれるとのこと。私は五平餅付きのそばを注文したが、

女性陣は、タラの芽の天ぷらがおいしかったと喜んでた。

奈良井宿を抜けてから、鳥居峠まで往復することにする。ガイドブックにあった石畳を上る。TさんとNさんは、想定外だったこともあり、すぐに引き返して奈良井宿で待っているとのこと。



残った4人で鳥居峠を目指すことにする。結構ジグザグに上るところもある。ここは、奈良井宿と藪原宿結び、当時は難コースだったらしい。ここは、明治天皇だけではなく、W.ウエストン明治24年に歩いているらしい。とても歴史のある峠だ。



峠は展望が良いと書かれていたが、あまり展望はなく、一番高いところへは行かれないようになっている。それでもなんとか御嶽山は見たので、引き返す。

奈良井宿で、木曾の大橋を見ようと地下歩道側に行くと、Tさん、Nさんがバナナを食べていた。ちょうど良いので、全員で木曾の大橋を

見に行く。ちょうど、中津川行き電車が通り過ぎていった。

奈良井駅に戻り、塩尻に向かう。塩尻で日帰りできた N さんと別れ、5人は2台のタクシーに乗って崖の湯の蕎麦宿に向かう。蕎麦宿に着くと、宿の方が迎えてくれる。中に入ると、正面には、塩尻の街と北アルプスの風景が広がっている。部屋や浴場からも良い景色が見られ、とても良い宿だ。明日は、3時半にタクシーが迎えに来るため、20時前には眠りについた。



木曾の大橋前で

☆6月2日

3時少し前に起きて、準備を済ませ、タクシーを待つ。視界は良好だが、空は曇っていて星は見えない。Iさん親子は、M君が早く起きれないので、5時にタクシーを呼んである。まず3人がタクシーに乗って高ボッチに向かう。



泊まった崖の湯温泉

途中、シカが道路脇に姿を見せた。クラクションを鳴らすと、攻撃してくるらしく、ゆっくり移動して、立ち去るのを待つ。

高ボッチ高原の展望駐車場でタクシーを降りる。もう4時だ。明るくなってきている。夜景の写真を撮るをなんとしても撮りたいと思い、タクシーの会計を T さんに高ボッチ山に駆け上が

る。すでに一人の男性が三脚を立て、写真を撮っていた。

小さな三脚を持ってきたが、それでは低すぎて写真を撮れないので、山頂に打ち込まれていた杭を使ってカメラがぶれないようにして写真を撮る。



高ボッチ山から見た諏訪湖周辺の夜景

なかなか、TさんとICさんが上ってこないで、大声を出しながら駐車場の方へ下っていく。ようやく声が聞こえ、上ってきているのが分かった。

高ボッチ山の山頂で大展望を楽しみながら朝食タイムとする。曇り空で太陽は見えないが、北アルプス北部の山々には薄日が差しているようだ。白馬岳から穂高連峰、さらに霞沢岳、乗鞍岳までの北アルプスの山々が屏風絵のように連なり、さらに御嶽山、中央アルプス、南アルプス、八ヶ岳と連なっている。富士山は、うっすらと頭の部分だけが見えていた。ここから見ると、南アルプスより低く見える。南アルプスは、南部の山まで見えていた。



北アルプスを背に登ってくるIさん親子

遅れて蕎麦宿を出発したIさん親子が上ってきた。二人も、山頂で朝食を摂る。

朝食が済んだら、鉢伏山に向かう。その前に

展望駐車場でトイレを済ませる。駐車場もすばらしい展望だ。

ここからは車道を歩くことになる。平坦ではあるが、少しアップダウンはある。それでも赤いつぼみと白い花がすばらしいズミの木や、足下に咲くサクラスミシヤタチツボスミシを楽しみながら歩く。カッコウの音がこだまする。ヒバリもさえずっている。高原の朝を楽しみながら歩く。鉢伏山に向かって少し登り坂になると、後の山々がよく見えるようになる。高ボッチ山は、もう遠く低く見える。



御嶽山を背に鉢伏山に向かう

鉢伏山荘に着き、ここにザックを置いて山頂を往復する。少し上ると、北アルプスがとてもよく見える。高ボッチ山より距離的に近いので、北アルプスの展望がすばらしい。隣的美ヶ原や霧ヶ峰も近くに見える。



乗鞍岳と梢でさえずるホオジロ

山頂で集合写真を撮り、少し下にある展望台まで行ってみる。展望台への階段は70度くらいあるのではないと思われるくらいの急傾斜だ。上ってみると、松本方面の街が見え、その上に槍穂高連峰が聳えている。曇り空でも、すばらしい展望に離れがたい気持ちになる。これが青空だったらさらにすばらしいことだろ

う。

山頂を後に鉢伏山荘に下る。カッコウが歌い、ヒバリやモズが近くで見られる。鉢伏山荘で少し待つと、タクシーが上がってきた。タクシーに乗り込み、すばらしい展望の山を下っていく。早起きをしたこともあり、早々に眠りについていた。

記：網干



鉢伏山山頂にて

《参加者の感想》

奈良井宿は想像以上に風情があるところで、江戸時代に想いを馳せられて、とても楽しかったです。観光客が少ないのも、尚、良しの、オススメスポットです。観光が入るのも、良いですね！

鳥居峠はちょっと不完全燃焼ですが、中山道や戦国時代の古戦場後を歩くのは楽しいものでした。

宿泊先の崖の湯は、ロケーションも湯も最高でした。沸かし湯だそうですが、十分、秘湯を味わいました。

そして、高ボッチ、鉢伏山からのパノラマには、感動しました。あのような場所があるなんて…とても得をした気分です。ホームページの写真が楽しみです。

記：F.Iさん



ヒバリ

コースタイム

6/1 奈良井駅(11:45)…鳥井峠(14:05-14:30)…奈良井駅(15:30)

6/2 高ボッチ展望駐車場(4:00)…高ボッチ山(4:05-6:05)…鉢伏山(8:35-8:50)…鉢伏山荘(9:10)

★六ッ石山(6月9日)

参加者 会員(健常者6名)

前日の天気予報は、曇りで午後雨が降る予報だったが、朝から霧雨のような雨が降っている。昨日参加表明した S さんは、雨のためキャンセルとなる。他の参加者は、全員、奥多摩駅に集合。雨交じりだが、それほど気になる雨ではない。しかし、いつも混雑する丹波行きのバスは、我々の他に5人くらいいただけだった。

水根駅で降りたのは我々だけ。今日は、早めの行動をすることにして、すぐに歩きはじめる。道をよく知っているKさんが案内してくれる。舗装道路を登る。上にある民家に住む人は、高齢になったらとても歩けないような急な道だ。

車道から民家の脇を通って登山道に入る。登山道も非常に急だ。気温は低いが、さすがに暑い。半袖シャツの上にカッパを着ることにする。



雨の中、急坂を登る

急登をがんばると、ようやく989mの平坦地に着く。雨は降ったりやんだりだが、樹林帯のためにあまり身体には当たらない。休憩して歩きはじめると、身体がひんやりして寒く感じる、気温は10℃程度しかないのではないだろうか？

このコースは植林帯も多く、花も咲いていない。それでも、アオバトの声が比較的近くで聞

こえた。ツツドリの声も近くで聞こえた。キビタキの声も聞こえる。野鳥たちは、雨でも一生懸命だ。



美しいヤマツツジ

がんばって登ると、傾斜が落ちてトオノクボに到着する。ここに来て、初めて以前登った風景が思い出された。子ども山登り教室で登り、ここでお昼を食べたのだ。今回も、ここでお昼とする。天気が良くないので、食べ終わると、すぐに出発する。



トオノクボを過ぎ緩やかな尾根を登る

トオノクボの上は防火帯となっている。日当たりが良いからかわラビがたくさんある。Nさんが今晚のおかずに収穫している。

少し登っていくとヤマツツジが咲いていた。落花した花弁も地面を飾ってきれいだ。この一帯はヤマツツジが多く、楽しみながら登れた。

順調なペースで山頂に到着。計画より50分近く早い。山頂標識はとても立派な大理石だ。東京都は金持ちだな。



六ッ石山山頂にて

山頂から石尾根を下る。深い霧が幻想的だ。霧の中にくっきりと見えるヤマツツジもきれいだ。晴天の方がやっぱりよいけれど、霧の中でなければ見られない風景もまた良いものだ。

滑りやすいところもあったが、ぐんぐん下っていく。三の木戸山のトラバースを過ぎ、さらに稲荷神社を過ぎていくと、ようやく車道に出た。かわいい道祖神がある。

車道に出ると雨がそのまま当たってくる。近

道の階段を下り、奥多摩駅を目指す。

今回は、山で誰にも会わない静かな1日でした。梅雨の季節ですが、みなさんのおかげで雨の山も楽しみながら歩けました。 記：網干



参道を歩く。(Iさん撮影)

コースタイム

水根(9:50)…トオノクボ(12:10-12:25)…
六ッ石山(13:10-13:30)…三の木戸山分岐
(14:10)…奥多摩駅(16:35)

6月23日の大岳山は、事務局都合により中止しました。

講習会報告

★岩登り技術講習会(つづら岩)(6月16日)

参加者 会員(健常者2名)



天狗ノ滝

今回は、参加人数が少なかったが、しばらくつづら岩で岩登りをしていなかったこともあり、実施することとした。つづら岩を登るのは20

年ぶりくらいだと思う。ここは、アプローチが大変で、岩場まで急登が続く。

千足からまずは舗装道路を上り、舗装道路が終わるところから山道になる。すぐに道が分かれるが、今回は天狗ノ滝経由の道に登る。天狗ノ滝は昨日の雨の影響もあって、水量が多く、豪快に落ちていた。ルートに少し迷ったが、沢を渡って少し登ると、天狗ノ滝を経由しない登山道に合流する。

綾滝は天狗ノ滝より少しおとなしい感じで、無数の白い糸を引くようなきれいな滝だ。ベンチがあるので少し休憩する。

ここから次第に登りがきつくなるが、まだ最初はジグザグに道が切られていて、登りやすいが、小尾根に出たところに、ここから先は危険

だと標識がある。小尾根のため、ジグザグが切られていなくて、直登になる。岩場に着くまでに体力を使ってしまう。

岩場に着くと、どうしたことか人が大勢いる。これまでに3回ほどつづら岩に来たことがあるが、他のパーティーを見かけたことはほとんどなかったが、今回は30人くらいいたようだ。



アブミを使って人工ルートを登るMさん

そんな状況のため、いきなりだが、誰も登っていない人工ルートを上ことにする。人工グレードでA1。少しオーバーハングした6mほどの1枚岩をアブミを使って登ってみる。久しぶりの人工登攀のため、結構疲れる。足がつりそうになったこともあった。それでも、リードして終了点へ。終了点でトップロープをセットしていると、腰が急に痛み、ぎっくり腰になっ



ここを登る

たようだ。

Mさんは、人工登攀初体験。アブミを1本残

たようだ。しかし、まだそれほど痛くない。最後のボルトにアブミを残置してきてしまったが、腰が痛むので回収はMさんにしてもら

置してしまったため、その代わりに、長さの違うシュリングを3本カラビナにつなぎ、アブミの代わりにしてもらう。

最初は戸惑ったMさんだが、アブミの乗り方を理解してくれて、徐々に上に登っていく。しかし、立ち上がる際にどうしても腕力を使うし、脚力も使うことになる。中間くらいで、かなり消耗してきたようだ。それでも、がんばって最後まで登り切った。次は、一番右のフェースに行ってみるが、ここも3パーティーほどが使っていて、諦めることにする。

岩場の下でお昼を食べ、昼食後は、一番左の3級ルート、通称オケラルートを上ことにする。私がトップで登るが、最初のチムニー状の岩溝がややかぶり気味で良くない。悔しいけどハーケンを使ってAOで登る。その上は簡単になるが、支点が取れない。気休めの支点を取って、最後の岩のトンネルに入っていく。下から見ると、非常に狭くてヘルメットが抜けられないのではないと思うが、なんとかギリギリ抜けられる。ザックを背負っていたら、絶対に抜けられない場所だ。ここを抜ければあとは簡単な岩場となる。

終了点からは富士山も見えた。Mさんに登ってきてもらう。かなり苦勞していた感じがロープの動きで分かったが、しっかりと登ってきている。まだ2本しか登っていないが、Mさんは腕力を使い切り、十分に満足したということなので、引き上げることにする。



登り切ってガッツポーズ

下りは早い。あっという間に天狗ノ滝の分岐を通過し、綾滝に着く。千足のバス停に着くが、

バスが来るまで1時間少々のある。近くの酒屋さんに入って、ホッと一息つく。外にベンチがあるがさんさんと日が当たって暑いので、中で休ませていただく。おばあちゃんがころよく受け入れてくれた。そんなところに、初代スカイラインの車が着く。Mさんはとても

驚いていた。いろいろ話を聞いていたが、私は途中からすっかり眠りモードに入っていた。

記：網干

コースタイム

千足(8:05)…つづら岩(9:50~13:35)…千足(14:30)

※3月17日の岩登り技術講習会(鷹取山)は参加者不在のため中止しました。

キャンプ報告

★第12回ふれあいキャンプ(戸隠高原)(5月11日~12日)

参加者 会員(障害者1名、健常者4名)

☆5月11日

戸隠高原は、野鳥の宝庫。野鳥を見たり、歌声を聞くのなら、夏は適さない。それで、今回は春に企画した。天気予報も味方して、最初は曇りの予報だったものが、近づくにつれて晴れのマークがでるようになってきた。



キクザキイチゲ

当日は、素晴らしい天気恵まれた。新幹線の車窓からは、浅間山がとてもよく見えた。

長野駅で下車し、バスで戸隠キャンプ場に向かう。飯縄山の麓を巻くようにバスは走っていく。中社や奥社入口で多くの人が下車し、戸隠キャンプ場まで行ったのは我々だけだった。

キャンプ場は14時以降でないとチェックインできない。少し荷物を預かってもらって、バス道路に並行して付けられたさかさ川遊歩道を歩いて中社まで行くことにする。

歩きはじめると、早速ミズバショウが出迎えてくれる。キクザキイチゲも咲いている。新緑の木々の中を歩くのは気持ちが良い。しかし、どうも道がはっきりしない。途中で車道に出してしまう。他に道がないようなので、車道を奥社入口まで歩くことにする。道路端にもキクザキイチゲが多く、ミズバショウも咲いている。白い塊がいくつも水たまりの中に浮かんでいる。カエルの卵と思うが、はっきり分らない。

忍者からくり屋敷には入らないが、敷地にはカタクリがたくさん咲いている。



カタクリ

奥社入口からは、はっきりした遊歩道を歩いて中社に向かう。ここは、カタクリがずっと続く。キクザキイチゲやニリンソウも咲いている。名前がはっきり分らないがスミシの仲間もたくさん咲いていた。

途中で開けて戸隠山がよく見えるところで昼食とする。下の方には桜が咲き、とても良い景色だ。

女人堂跡を過ぎ、中社の西参道に到着。中社の本殿にお参りし、バス停に向かうが、バスは行ったばかりなので、小鳥ヶ池まで行くことにする。道がよく分からず、少し迷ったが、道標を探して正しい道を行くことができた。この道には、ショウジョウバカマが咲いていた。



小鳥ヶ池からの戸隠山も見事だった。M君はカモを見たがっていたが、残念ながらカモは見られなかった。

中社のバス停に戻り、バスでキャンプ場まで行く。キャンプ場に入ると、川が流れ、そこら中にミズバショウやキクザキイチゲが咲き、目の前には戸隠山が見える。木々の上には黒姫山も見え、振り返ると飯縄山も見える。すばらしいシチュエーションだ。



今回は5人だけだが、コテージを予約しておいた。コテージ内は、快適に過ごせるが、カメムシが非常に多い。コテージ内には、カメムシ退治用に殺虫剤が置かれている。20匹くらいのカメムシを退治したのだろうか？

食材の準備は、NさんとIさんをお願いした。おいしい料理に舌鼓を打ち、Nさんが準備してくれたビールと私が準備した焼酎を飲みなが

ら、いろんな話をしている内に夜は更けていった。



☆5月12日

3時半頃外に出てみると満天の星空だった。朝食は、ウインナーや野菜サラダなど。昼食用におにぎりも握っていただく。女性陣に感謝。

朝食後、キャンプ場内を散歩して、写真を撮ったりする。戸隠山や飯縄山がよく見える。アカハラの声も聞こえる。



M君は朝起きるのが辛い。それでも、がんばって起きて、朝食を摂る。出発は、予定より50分ほど遅れたが、行程には余裕を見ているので、ゆっくり出発する。

管理棟に鍵を返し、地図を確認してから、ささやきの小径を歩く。早速、アカハラが地面を歩いているのが見える。ミズバショウはどこでも見られる。スミレの仲間も咲き、キクザキイチゲやアズマイチゲも咲いている。朝の林を歩くのは気持ちが良い。

のんびりペースでなかなか進まないが、ペースに合わせて写真を撮りながらゆっくり歩く。ツツドリやイカルのさえずりが聞こえる。

雑木林やカラマツ林の中をしばらく歩くと

人の声が聞こえるようになる。ここまでは大人数の学生たちが通り過ぎていったが、それ以外に人に会うことはなく、とても静かなコースだった。

人の声が近づくと随神門に着く。ここは奥社の参道。さすがに人が一気に多くなる。私たちも立派な杉並木の山道を登っていく。ヤマガラやオオルリの声が聞こえてくる。



長い階段を登っていくと奥社に到着する。奥社の裏手には、戸隠山の岩壁が間近に迫っている。参拝してから来た道を引き返す。

随神門からは、森林植物園の中を歩く。熊が見られたという報告が連日あるので注意するように看板が出ている。M君は、怖くて不安になっていたが、お母さんが大丈夫であることを何度も復唱して聞かせている。8回ほど復唱しないと気持ちが切り替わらないことを理解しているのだろう。M君の気持ちをしっかりとつかんでいることに頭が下がる。



植物園内のミズバショウ園は、一面ミズバショウが広がりすばらしい。そこへキビタキが現れてくれた。鳥に興味のない人たちが通り過ぎていくが、逃げてしまわないかとヒヤヒヤする。

それでも、5mほどの近さでキビタキを見ることができた。

昨日からM君がカモを見たがっているので、みどり池に行く。カモはいなかったが、しばらく休憩していると、まずカイツブリが現れ、すぐにマガモも現れてくれた。マガモは2羽だけ。M君の思いがカモを呼んだのかも知れない。



ここでは、キビタキが見られ、さらにノジコも見られた。今回、双眼鏡を忘れてしまったため、ノジコとは分からなかったが、カメラに大きなレンズを装着したバードウォッチャーの方が教えてくれた。

みどり池から最後の目的地、鏡池に向かう。リュウキンカの群落が楽しませてくれる。

しばらく歩くと、赤い鳥居が連なっているところに出た。ここは天命稻荷だ。鳥居をくぐろうとすると、鳥居の横の木の低い位置に尾の長い大きめの鳥がいる。頭が黒かったので、サンショウクイではないかと思った。帰ってから写真で確認することにする。



鏡池はもうすぐそこだった。鏡池は周囲に桜も咲き、戸隠山がよく見える場所。畔の木の下で昼食タイムとする。予定のバスにはもう間に

合わないので、1本遅らせることにする。

集合写真を撮ってバス停に向かうことにする。地図にある池めぐりコースを歩こうと思ったが、登り坂があるので、車道を歩くことにする。この車道も緩やかだが登りが続いていた。それでも、遠の黒姫山を見たり、センダイムシクイの声を間近で聞いたりしながら歩いて行くと、森林植物園のバス停に着いた。土産を買いたい人もいるが、ここには何もないので、中社まで歩くことにする。

中社でバスに乗り、帰路についた。バスの中では、いつの間にか眠りについてた。豊かな自然の中で、多くの野鳥や草花に出会えて、とても楽しい2日間を過ごすことができた。

記：網干

《参加者の感想》

戸隠高原が、想像以上の素晴らしい場所で、『なるほど、これなら誰もが満足できる♪テンションあがる♪』と実感できました。珍しい花、鳥達に出会うことに慣れてくる感覚も、贅沢な経験でした。

本当に素晴らしかったです。表現できる言葉

※ふれあいハイキング（片倉城趾公園・絹の道）は雨のため中止しました。

その他活動報告

○第1回定期総会開催

第1回定期総会を6月29日（土）に八千代市東南公民館で開催しました。出席者は42名（書面委任32名を含む）でした。昨年度の事

各種連絡事項

▲全国視覚障害者交流登山について

全国視覚障害者交流登山を1年おきに関東と関西の団体が、交互に主催して実施してきましたが、主催する団体の負担が大きすぎ、少人数の団体や高齢化している団体では、主催はで

を持ち合わせていなくて…感動をお伝えしきれず、ごめんなさい。

ご一緒できましたみなさま、ありがとうございました。ホームページの写真がものすごく、楽しみです!!

記：F.Iさん



コースタイム

5/11 戸隠キャンプ場(11:15)…中社(13:30着、14:39発バス)ー戸隠キャンプ場(14:51着)

5/12 戸隠キャンプ場(7:50)…随神門(9:45)…奥社(10:15-10:20)…みどり池(11:25-11:40)…鏡池(12:20-13:10)…中社(14:00)

業報告、今年度の計画等を審議し、特に意見なく終了しました。

きない状況になっています。そのため、今後の進め方について各団体の代表者で決めることになっていますが、山仲間アルプとしての考えを定期総会の際に、みんなで考えて決めました。

今後は、これまでのような持ち回りは難しいこと、旅行業者に手配することは費用が高くなりすぎること、しかし、今後も団体の連携は維持したいことなどを基本的な考えとして持ち、1～2年に1回程度各団体の代表が集まり、それぞれの団体の状況や今後への思いを話し合う機会を作ると共に、各団体が他の団体に参加

を呼びかける企画を年1回程度作って、少人数のグループで交流してはどうかという意見が出ました。その連絡方法としてはメーリングリストの活用がよいのではないかと。

そのような意見を山仲間アルプの意見として各団体の代表に示すことにしました。

会 員 情 報

◎新入会員のお知らせ

3月以降、下記の方が新入会及び再入会されましたので、よろしく申し上げます。(敬称略)
正会員
2名

●退会のお知らせ

残念ですが、3月以降、下記の方が退会されました。(敬称略)
3名

編 集 後 記

・会長のつぶやき

自分自身の単なる趣味ですが、1970年代は、フォークソングが多く、若者たちを引きつけました。フォークシンガーの中でも吉田拓郎に感化された若者は多いと思います。私はまだ中学生から高校生でしたが、その一人でした。

彼の歌う詩にとっても共感していたのですが、この歳になっても、まだ共感する部分がたくさんあります。彼が30歳台の後半になってから作った歌に、愛情に関する部分が多く出ているように感じます。

「愛されたいと願うのは愛したい気持ちが

足りぬから」「愛する努力はしなくても愛されることにおぼれてる」「愛にうえた時甘えるなよ」など、愛を求めることの問題点を歌っています。

20歳台前半の頃、友だちと、「愛されるより愛する方が幸せなのだ」と話していましたが、求めることは相手に負担をかけることであり、求めすぎれば相手は逃げていきます。相手の気持ちはどうであれ、自分は人を愛する、大切にするという気持ちでいつもいることが大切なことなのだ」と改めて思います。

・次回発行予定は、11月頃を予定しています。

参加申し込みやお問い合わせは下記まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
山仲間アルプ 網干 勝
TEL.047-484-8308